

## ソニー坊やとは何ぞや? 【前編】

今回区長から依頼されて、区民の皆様に紹介させていただきます。まずソニー坊やとは? 週刊朝日に昭和31年~昭和43年に連載されていた、岡部冬彦さんの作品「あっちゃん」がモデルとなってソニー坊やが誕生しました。そしてソニーは自社の宣伝のキャラクターとして、高さ30cm程のビニール樹脂の人形を作り、全国のソニーの代理店に配りました。その頃沖縄では那覇の久茂地、にソニーの代理店で従業員20名余の電波堂がありました。当時の沖縄は戦後復興からの立ち上がりの途中で、電波堂の倉庫は今日仕入れた商品が翌日には空になっていたそうです。電波堂の創業者である新川唯介社長(1989年没)は、コンクリート像のソニー坊やを400ドルかけて誕生させました。

ちなみに当時のトタン屋が、1軒400ドルだったそうです。まず1人目は久茂地にあった電波堂本社ビル入り口に立ちました。新川社長の孫で哲楽家の紀々さんが調べましたが、いつ作ったのか? 何人作ったのか? どこにおいたのか? 何も資料が残ってないのでわからなかったのですが、琉球新報社さんが調べてくれて、昭和37年10月7日の過去記事に30体設置と書いてあったそうです。しか

し、現在は5体しか残っていません。

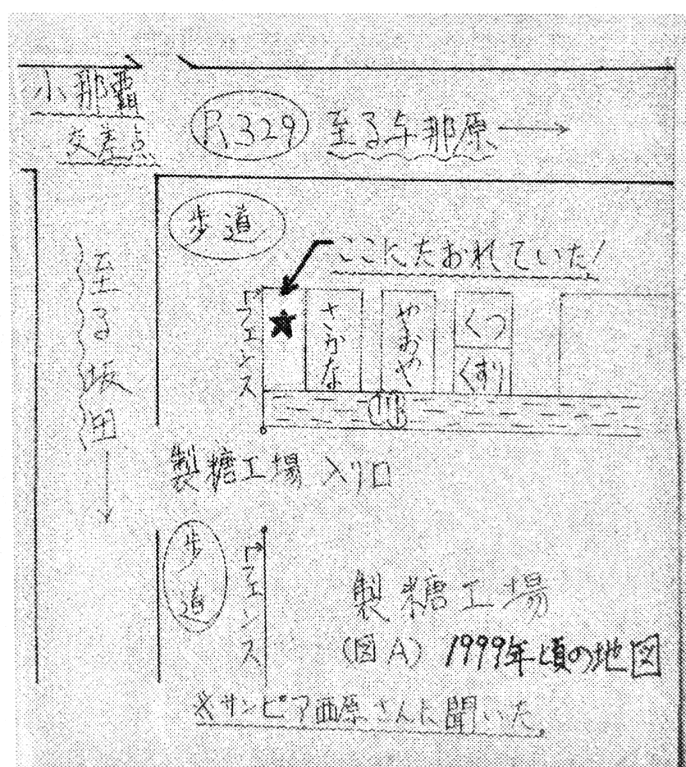


図 A

※1999年頃は、やおや、くつ、くすり屋は空き家だった。  
最後はさかな屋だったが、その前の肉屋がながかった

本部町謝花、宜野湾市野嵩、うるま市安慶名、糸満市名城、西原町兼久です。今回は兼久のソニー坊やの秘話を紹介します。今は兼久にいますが、最初は嘉手苧にあった元中部製糖工場の敷地内にいました。国道329号線の小那覇交差点の角近く、今の西原シティー駐車場前に製糖のモニュメントがあり、そこに時計塔があります。その時計塔付近にソニー坊やはいました。(図A参照)。

お店の建物の横に金網のフェンスがあり、その間が1m位ありました。そこに斜めに倒れ、半分土の中に埋まっていました。フェンスの前には、西原町が建てた東崎分譲地の大きな看板がありましたので、影になって歩道からも見えにくくなっていました。

その頃さわふじ中央通り会が、シンボルにしようと引き取ることが決まり、宮平プロパンさんの敷地内に平成11年引っ越してきました。移設作業に携わった赤嶺秀雄さんによると、「あの頃

のソニー坊やは首が折れてボロボロだった」そうです。そこで首に鉄筋を入れて、少し首をかしげてかわいいソニー坊やにしました。また、おなかには貫禄が付くようにメタボ気味にしたそうです。完成した坊やのためにソニー本社にも声をかけて、除幕式が行われました。ソニー本社から来てくれましたが、「こんなに大きなソニー坊やが存在するのは知らなかった」と驚いたそうです。新川社長が、独自で行っていたのでした。新川社長はボーイスカウトをしていて、青少年育成の為、



交通安全の為に作られた坊やでした。しかし、ソニーと書かれていますが電波堂とはどこにも書いていません。そういうことで地域の皆さんには電波堂の宣伝ではないので、県内各地におかせてもらったのだと思います。(記：田邊慶之)

E
30
7 (敬老)
14
21 (敬老)
28 (敬老)
※
※